

# 資料 A

## 全国保健師長会調査研究事業

## 保健師同士で語り合うワールドカフェ「コロナと保健師活動」実施報告

## 1. 参加申込および参加者数について

事前登録者： 84 名

当日参加者： 77 名

・うち 1 名は事前登録なしでの参加

・うち 1 名は 1 つの画面で 2 名が参加(2 名としてカウント)

※ 上記にはスタッフおよびオブザーバーを含まない

※ 事前および当日に、計 3 名より欠席連絡があった

※ 当日は全国的に KDDI の大規模な通信障害があったが、この件に関する連絡は受けていない

※ 当日電話サポート 2 件（音声が無効にならない等。Zoom 接続自体の問い合わせはなかった。）

## 2. 当日の流れ

## 本日のワールド・カフェ開催の目的

思う存分話まして、すっきり  
してもらいたい！

- ・「保健師がコロナ対応をどのような思いで取り組んできたか」
- ・「これからのことを考え、語り継いでいきたいこと」
- ・辛かったこと、泣きたかったこと、腹が立ったこと、嬉しかったこと……コロナ対応で色々な思いをしながら頑張ってきたことを保健師同士で話したいと思い企画しました。

申込時の要望(話したいこと)  
「この経験はどう生かすのか」「ワークライフバランス」「保健師の応援体制」  
with コロナでの保健師活動、人材育成といった意見がありました。  
またご意見はグループ分けの参考にさせていただきます。

## 本日の流れ

色々な保健師との出会いの場。  
地域や立場や環境が違って、  
保健師の思いを語り合う場はきっと  
素敵な共感が生まれ、元気をも  
たえる場になると思います。

1. 開会挨拶、プログラムの説明
2. トーク1: ランダムグループトーク
3. トーク2: 参加希望グループ別トーク  
グループ: コロナ対応最前線、統括保健師、管理期、中堅期、  
ワクチン接種、子育て中など
4. トーク3: ランダムグループトーク
5. 全員で振り返りセッション(チャットを活用)
6. 閉会(アンケートにご協力ください)

感想を書き込み  
お願いします！

## トーク2 テーマ

あなたが大切にしてきたことは何ですか？  
どんな思いで活動してきましたか？  
(申込時に選択された参加希望別グループです)

- ・保健師として大事にしたことは...
- ・自分自身のことを振り返ってみると...
- ・その時の気持ちは... 思いは...
- ・このグループだからこそ話せる、話したい、聞いてみたいことが...

最初に全員で自己紹介をしてから、テーマについて話し合ってください。  
自己紹介の際には、先ほどの部屋で印象深かった話題をいくつか添えてください。

## トーク1 テーマ

あなたが大切にしてきたことは何ですか？  
どんな思いで活動してきましたか？

- ・保健師として大事にしたことは...
- ・自分自身のことを振り返ってみると...
- ・その時の気持ちは... 思いは...

最初に全員で自己紹介(自己紹介と参加動機を話してください。)をしてから、  
このテーマについて思ったこと、考えたこと、体験したこと等を話し合ってください。

## まとめのセッション

参加された感想や、印象的だった話など、自由に  
チャットに書き込みをお願いします。

チャットなんてわからない！という方は、終了後のアンケートで  
コメントを。  
アンケートも難しいという方は、1週間以内に全国保健師長会  
事務局までメールで感想等をお寄せください。

また、この後参加者に

- ① ZOOMのチャットでアンケート回答用URLを送ります。
  - ② ZOOM終了次第、アンケートのページが開きます。
  - ③ アンケート回答用のURLをメールで送信します。
- ①～③のいずれかの方法でアンケートへの協力をお願いします。

## トーク3 テーマ

語り継ぎたいことは何ですか？

- ・忘れたくないことは...
- ・残しておきたいことは...
- ・次に新たな感染症が起きた時のために...

最初に全員で自己紹介をしてから、テーマについて話し合ってください。  
自己紹介の際には、先ほどの部屋で印象深かった話題をいくつか添えてください。

### 3. 当日のチャットによる意見

- ・ ありがとうございます。  
初めてのオンラインワールドカフェでドキドキでしたが、すごく皆さんを近く感じることができました。保健師同士、気持ちを通じ合えた気がします。
- ・ 初めての形だったので、どんなものかと思っていましたが、気軽に全国の人と交流できるのはよかったです。
- ・ ありがとうございます。  
様々な立場、所属の方と話ができてよかったです。
- ・ 時間が足りなかった！またお話しする機会が欲しいです。
- ・ すでに現場を離れている立場からの参加でしたが、保健師をとりまく課題の共有ができてよかったです。看護協会という立場でできることを考えていきたいと思います。
- ・ ゆっくり話ができて大変癒されました  
ありがとうございました
- ・ 大切な県外の仲間と繋がることが出来て嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・ 今日はとても良い時間をもつことが出来ました。ありがとうございました。
- ・ 短い時間でしたが全国の色々な立場の方々と話せて楽しかったです。  
またこのような機会を設けていただけるとありがたいです
- ・ ありがとうございます。もっとお話しを伺いたかったです。
- ・ 自分が課題に感じていたことが、他の自治体で働く保健師さん達も一緒なんだなとわかって、いい意味で肩の力が抜けました。
- ・ 楽しかったです。ありがとうございました！
- ・ 他の方がどのような工夫をして乗り越えてこられたのか、おききすることができ良かったです。ありがとうございました。来週からも頑張るパワーをいただきました。
- ・ 全国保健師長会に初めて参加しましたが、同じ保健師の皆様とお話ができて元気がもらえました。ありがとうございます。もっと話をしたいです、またこのような機会があると嬉しいです。
- ・ 他の県や市の保健師がどこも似たような課題を抱えて、コロナ対策に取り組み、少し落ち着いてきたところで新たな対策を講じていることがわかり、勇気が出ました。みんな泣きたくても泣けずに乗り越えてきたところで、泣いてもいいんだよと言われてもらったような気がして、管理期だからと肩に力が入っていたことに気が付いたいい機会でした。このような機会をいただきありがとうございました
- ・ コロナ禍における人材育成は、共通の課題であると思いました。ありがとうございました。
- ・ 全国の保健師の方々とお話ができてとてもよかったです。明日からまたがんばろうというヒントがたくさんもらえました。

- ・ 時間が足りなかったですが、同じ問題を抱えていることがわかりお話しできてうれしかったです。
- ・ 全国で様々な役割を果たしてきた保健師がいかに真摯に取り組んできたのか、痛みを持っていたのか、それでも前向きに頑張ろうとしているのか、感じることができました。確かに肩の力が少し抜けたように思います。
- ・ いろんな自治体の保健師さんとお話しできて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 自分だけでないことがわかって、ちょっとホッとしました。良い機会をありがとうございました。
- ・ 楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・ 貴重なご意見を聞くことができとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・ 今日のワールドカフェを楽しみにしていました。同じ立場の方と話す場は大事ですね。ぜひ、次も開催してください。
- ・ コロナでつらかったことも多いですが、良かったことも見つけられてよかったです。
  - 医療や看護連携、福祉関係職種との連携、他職種との連携、たくさんの連携を深めることができた
  - 地域活動を強制的に止められたからこそ、地域に出向いて活動したい、という欲求が高まり、若手保健師もいきいきと地域活動できているのではないか
  - 保健師の活動を他職種に理解してもらえるきっかけになった
- ・ 対応が長くなり、いつまで続くのかという不安がありますが、どこの自治体でも同じように感じておられることがわかりました。オンラインで遠くの皆さんと繋がれて、便利な時代になったなあとしみじみ感じました。ありがとうございました。

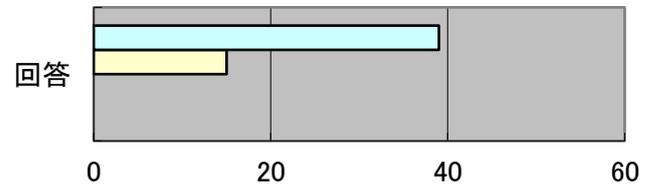
## 4. アンケート結果

有効回答数 54件

### ① 参加していかがでしたか？

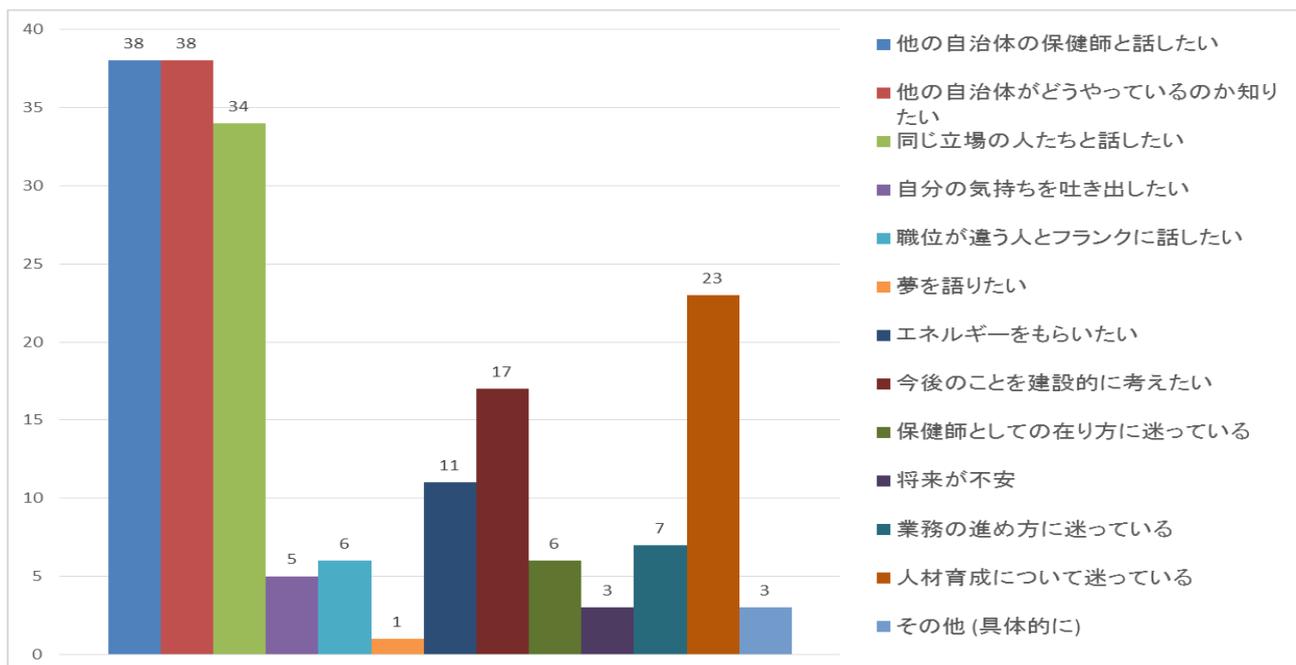
とてもよかった (72.2%)

よかった (27.8%)



	回答
□とてもよかった	39
□よかった	15
■あまりよくなかった	0
□よくなかった	0

### ② 今回の参加動機を教えてください(いくつでも)



#### その他の回答

- ・zoom のワールドカフェを体験してみたい。
- ・zoom で行うワールドカフェに興味があった
- ・所属している看護協会としてできることを考えるきっかけにしたかった(OB)

③ 次年度開催する場合に、話したいテーマがあれば教えてください。

- ・ 人材育成(新人期、中堅期、主査、管理職それぞれの課題と取り組みを共有できるといいと思います。)
- ・ 人材育成の現状・課題と今後の取組について ・健康課題と保健活動の状況について
- ・ アフターコロナの人材育成
- ・ コロナ禍における人材育成
- ・ コロナで通常の活動とは異なった体制や活動を行ってきた新任保健師の育成
- ・ 感染症に新たに増員となった保健師の活動 人材育成(経験のある保健師への育成の工夫) 新たな感染症や災害に備えた研修や訓練等について
- ・ 新任保健師の人材育成
- ・ 人材育成、地域での看護職同志の連携(地域包括ケア)
- ・ 保健師の人材育成(10件)
- ・ 災害対策、人材育成
- ・ 子育てや介護など家庭の事情と仕事の両立について
- ・ 次世代保健師育成に必要なこと
- ・ 上手くできたと思うこと。やれたことなど、ポジティブな内容。
- ・ 「今」を語り合うのに適したテーマを希望します。
- ・ これから保健師が取り組むべき保健師活動のあり方
- ・ 県型保健師の保健活動について
- ・ ポストコロナの保健師活動の在り方について
- ・ 統括保健師の心構えについて聞きたいです 特に県や、大阪市、横浜市など大きな自治体の統括の方と語り合う場があるといいなと思います
- ・ 保健師として大切にしているものを継承する取組の実践や、成果、課題について情報交換したい
- ・ メンタルが落ちているので…
- ・ ゆるいテーマで雑談のような場があるとよい

## ④ 全体を通して、印象に残った話題を教えてください。(いくつでもどうぞ！)

- ・ ○保健師以外の感染症対応職員の養成が必要 ○コロナ(災害時)の応援と受援について、他職種・他部署にも理解が必要 ○保健師は「予防」活動をする者であるにも関わらず、この2年間新人保健師に伝えられていない。新人保健師も臨地実習できていない負い目を感じながら入職しているので、やりがいを見出しながら育成していく配慮が必要 ○未来を担うこどもたちが「なりたい」と言ってくれるような職種でありたい ○(応援・受援を考えるうえで)保健師がやらねばならないことは何なのか、保健師でなくてはできないことは何なのか ○いざというときに役に立つのは、これまでの自分のネットワーク(保健師間、他職種間、組織間)、普段からの連携が重要
- ・ コロナの厳しい現場で若手やバーンアウトでの退職等起こる、スタッフの健康が大切である ・ 災害時の対応として衛生部門だけでなく、全庁的な課題として取り組むためにどのような仕掛けがあるのか ・保健師そして事務方とそれぞれの得意なこと不得意なところ役割理解と分担が必要
- ・ コロナ禍で経験できていない部分があり、若い人が育っていない。 ・コロナ禍で、地域の様々な活動が中断して数年が立ち、保健師も地域住民もコロナ前を忘れていたり知らないことが多い。本来あるべき姿を伝承していく難しさを感じる。
- ・ どんな思いで活動しているのか、辞めたいと思いつつ辞めずにいるのはどうしてなのか等話せて良かったです。
- ・ バーンアウトしていく仲間を見送るしかなかった心の傷はみんな同じだということ。 ・日ごろの職場内の人間関係や動きが、非常時に大きく影響すること。 ・ウェブの普及による人材育成の形や事業の形の変化、効果的な開催方法の検討が今後の課題。 ・コロナ禍で地域活動がわからない新任保健師の育成が大きな課題。
- ・ 雑談の大切さ！
- ・ 思いを吐き出す場を意識して作ったこと。 ・今後のためにまとめをしていく必要があると思うが、振り返りたくない、思い出したくない方がいてできないこと。 ・コロナ禍の新任の人材育成に苦慮していること。
- ・ 長期戦を生き抜くために、保健師自身の健康を守り合う ・統括保健師の職位、権限、給与への反映状況(語り尽くせませんでした)
- ・ 保健師の心が荒んでいく状況に胸が痛んだといった話が複数の方からありました。保健師自身も傷つき、無理しながら対応していることを改めて実感しました。 また、振り返りが辛いと言っている方も多数いらっしゃるとのこと。保健師のメンタルヘルスも大事で日頃の愚痴を言い合える環境づくりや、超勤削減、業務の平準化など、普段の取組が重要という話も印象に残りました。 ・コロナ禍で採用された保健師が地域に関心が持たず、事業だけをまわそうとしている。地域に出られるように、地域活動の楽しさがわかってもらえるように育成していく必要があるということも、共通の課題であると思いました。
- ・ これからの人材育成が大切 保健師として大切にしてきたことを、つないでいきたい。

- ・ コロナが収まってきたら派遣される人も減り楽にはならない 健診を止めたらリカバリーが大変すぎる コロナ禍で採用された保健師のフォローが大事 という話が出て 何処も同じだなと思いました
- ・ コロナで保健師の知名度が上がったこと。 心身共にしんどい仕事であり、新人など入社若い人と定年前の人の退職が多い。
- ・ コロナはマイナスなことだけでなく、コロナがあったからこそ、保健師の強みを発揮でき、保健師活動を認めてもらえた。一方で、保健師の弱みも見えた。大変さや忙しさを見える化して、根拠を示さないと周りは動かないので、忙しいときほど周りを説得できる力が必要だと思った。 次世代に残したいことは、成功体験だけでなく、失敗談も残しておくことよい。
- ・ コロナを通していろいろな人に支えられた。対応できない疫学調査を対人援助職のケースワーカーに依頼できた。今の現状を毎日迷惑メールのように部署全員に送り続けた。(継続しての発信力)必ず今までの振りかえりをする。
- ・ コロナ禍にあっても、優先順位をつけて地区活動を行っている 乳幼児健診が延期になって大変 ストレスをためない。ガス抜きが大切
- ・ コロナ禍における人材育成の悩みをどこも抱えていることがわかった。
- ・ コロナ対応など、危機管理で保健師だけで突き進むのは困難。事務職など多職種と如何に連携できるか。どのように伝えていくかが大切。 危機で、保健師自体が分断されることのないよう(職域などで)、むしろこれを機に一つになれるように。 コロナ禍に採用された保健師に、通常の経験をしてもらう場づくりが必要
- ・ コロナ対応は大変ですが、それを大変だったというマイナスな感情としてだけで捉えるのではなく、その大変な中でも、よかったこと、前向きになれたことを見つけて今後の力に変えていこうと思っておられる保健師さんとお話できたのがとてもよかったです。やはり仲間がいることは大切だなと改めて感じました。
- ・ コロナ対応を思い出したくない若手の保健師が多いと聞き、辛いことだと思いました。何とか、前向きになって欲しいです。
- ・ デルタ株流行時や第6波の時の都市部の保健師の業務逼迫の様子が印象に残った。医療崩壊に違い状況で、中等症や重症に近い患者も入院させることができず、その中でできることをやっていたという話を聞き、変異株やほかの感染症など、いつ自分の地域でもそのような事態になるかわからないと感じた。
- ・ とてもただ走って来たという言葉が印象的でした
- ・ どのグループもコロナの話題で一杯でした。その中で支え合い乗り越える姿が印象にのこりました。つながって大事ですね。
- ・ バーンアウトを防ぐため少しコロナが落ち着いたタイミングで心理士を入れるなど、それぞれ工夫していたり、映画を共有して話す機会を作ったりと勉強になりました。

- ・ ピンチはチャンス、今回の経験で新しい絆ができた。これを住民の健康のために活かしていきたい。エンパワーメントのための研修をやった話を聞いて、自分のところでもやってみたいと思った。市民からの問合せに正しく答えるために、法律を改めて勉強した。正しく理解することと、それを説明できる能力が大切なんだと実感した。
- ・ 緊急事態時の保健師の健康管理やバーンアウトの予防 リーダーの役割とリーダーを支える体制の必要性 コロナ対応と本来業務の進め方について
- ・ 県、政令市、市、様々な立場でコロナと向き合っていることが分かった。
- ・ 今日参加されていた保健師さん達は、厳しい状況下を生き抜いてきた力のある方ばかりだと思います。そういう方同士が繋がれる場を用意していただき、本当にありがとうございました。
- ・ 市町村同士でグループになれるとよい。たとえ 1 回でも。
- ・ 自由に話ができてとても有効なひと時でした それぞれの立場でも、思いは一緒なんだと感じました
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応について、自治体内の保健師で情報共有や振り返りをすることの重要性を感じた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策最前線の方からの「何も覚えていない」という発言。第 4 波の人事異動時期との重複による混乱とその課題解決の方策として行われた全庁的対応や応援体制の構築。
- ・ 新任保健師が多数採用される中で、コロナ以外の幅広い経験をすること、対象者と会って話すことの重要性など、今後の人材育成の課題と感ずるという意見が印象に残った。
- ・ 辛い気持ちを吐き出せる職場づくり、若い保健師に地区活動の楽しさを感じてもらうための工夫
- ・ 人材育成の課題(コロナと通常業務、年齢構成) コロナの疫学調査においても家族・世帯・生活を見る視点があるとないとではアプローチが違ってくる(他の職種(応援スタッフ)との違い)ことを通じて保健師の特性を再認識 バーンアウトを防ぐための相互支援
- ・ 全体を通して、自治体や働くセクションは違えど、保健師として、気持ちが通じ合うということを実感しました。最後のセッションでは、コロナ対応の気持ちの面の辛さも吐き出しあいができました。メンタルヘルスケアとして、それぞれの職場などでの保健師同士の相互のケアが重要と再認識しました。 普段の地域や職場の健康増進や、人材育成こそが、危機状況にも対応できることにつながるという考えが、しっかり共有できました。参加できて、本当によかったです。ありがとうございました。
- ・ 組織として、吐き出す場を作るということ。 保健師の役割が見える化すること。
- ・ 統括保健師となる重み 思いを吐き出す場が必要なこと 中野区のコロナ対応を映画化し記録として残すことができたこと 等
- ・ 同じ思いを抱えている全国の保健師の方々に会えて、元気をもらえました。ありがとうございました。

- ・ 病休、退職となった保健師が多数いることは衝撃だった。 思いを吐露することは必要なこと
- ・ 保健師として、総合力、調整力などの他、何を大事にしていくべきか、考えさせられる時間になりました。皆さんの話を聞いて、とても参考になり、よかったです。
- ・ 保健師として大切にしているものについて、特に退職目前の保健師に伝えようという強いメッセージ性を感じました
- ・ 保健師の専門性の人材育成だけでなく、行政保健師として多職種(事務職含め)の方から育ててもらうことも必要 自分だけでなく、コロナ禍で全国の保健師が悩んでいることを確認しました。とても悲しいことですが。
- ・ 保健師同士のつながり 仕事の見える化

#### ⑤ その他、ご意見やご感想などがあればどうぞ。

- ・ どんな状況下でも住民に寄り添い、懸命に業務に当たっている保健師の多くが傷つき、振り返ることすら辛い状況にあることに胸が痛みました。傷ついた心が直ぐには癒えないかもしれませんが、保健師の頑張りが記録に残り、互いに讃えあえるようになれば良いと思いました。
- ・ 2時間という時間はあっという間で、楽しかったです。 お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 3~4人という形が、話やすく、よかったですと感じました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。新しい取り組みを体験する、貴重な機会でした。
- ・ いろいろな自治体の、いろいろな立場の方とお話できて、とても勉強になりました。経験ある方々がどんどん退職されるので、保健師マインドを丁寧に伝承していかないといけないと思いました。
- ・ オンラインでのワールドカフェ、どうなるのか不安でしたが時間が足りないと感じるほど充実した時間でした。 企画していただきありがとうございました。
- ・ オンラインのワールドカフェは初めてで緊張しました。最後は時間が足りないと感じるほど、気持ち語り合うことができました。ありがとうございました。
- ・ グループの人数があまりに少ないのも残念な気がしました。できれば4~5人はいたほうがいろいろな話が聞けてよいと思います。
- ・ グループ分けもスムーズでした。事務局お疲れ様でした。初めて会っても住民を一番に考え、不安を和らげたいと願う姿勢、庁内外の協力者を得ながら体制を整えようとする仕事のやり方、やっぱり保健師だなあと感動しました。ご参加いただいた皆様に感謝します。参加者数が集まり難かった要因には、所属内でのリダクションが行えていないのにと意識があったかも知れません。
- ・ このたびのような機会を与えて頂き感謝申し上げます。師長会の存在をより身近に感じました。事務局の皆様本当にお疲れ様でした

- ・ このような機会は自分だけでは作れないので、保健師長会で企画いただきありがとうございました。
- ・ コロナが教えてくれたことを皆さんと共有できることは、今後の大きな力となりそうです
- ・ コロナが落ち着いたら、全国の保健師が集まり、集合方のワールドカフェを開催してほしいです。参加にあたり職場の許可が必要になると参加しづらいです。今後も本日のような自由参加型のものがあると、気軽に参加しやすいです。
- ・ 楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 機器の不具合で電波が途切れたりするのもかと思っていましたが、スムーズな機器チェンジで大変良かったです。自分の自治体でもこのような形で開催が出来たら良いと思いました。ありがとうございました。
- ・ 業務の多忙さで、保健師像が変化してきている事に危機感をおぼえました。大阪府市町村の保健師人数を増やしてほしい… 健康指標ワーストの大阪の健康施策もワーストなのかもしれない。保健師の人数もしかりかもしれない。
- ・ 今回の zoom のワールドカフェ、思っていた以上にスムーズでした。今後、地元の研修などにも取り入れたいと思います。
- ・ 今回のオンラインによるランダムグループトークを体験し、全国の皆さんと情報交換ができ、参加してよかった。
- ・ 今後、情報交換するために参加者の所属、氏名、連絡先などの名簿を頂けると有難いですが、いかがでしょうか。
- ・ 最初は、緊張しましたが、みな同じ思いで頑張っていることが共有できてよかったです。
- ・ 自治体規模が同じくらいのグループもいいのではないのでしょうか
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応によって、保健師という職種の重要性を多くの人に知ってもらえたと感じた。今後はこの経験を活かしつつ保健師活動を発展させていかなければならないと感じた。
- ・ 全国の自治体の方とこんなに語れるのは、やはり同じ保健師だからこそだと思いました。他の自治体の方とのグループなので、忸度なく本音で語れたこともよかったと思います。またこのような機会を設けていただけると嬉しいです。ありがとうございました。
- ・ 全国の保健師さんと話ができて、共感することや気づきが多かったです。ありがとうございました。
- ・ 全国の保健師と話が出来てほんとうに楽しかったです 企画、準備、大変だったと思いますがありがとうございました！
- ・ (新任期)全国の保健師の先輩方の話を聞くことができ本当に良かった。自分が新人ということで、皆さんが気を遣って、あまり生々しい話ができなかったのではないかと心配がある。そういう意味でも、セクションが3回に分かれて、いろんなグループで話ができる体制だったのはとても良かったと思う。

- ・ 全国の保健師を対象とした企画が、どんな研修になるのか・・・と興味深々でした。グループ分けや時間管理もスムーズで大成功だと思います。ZOOM のメリットですね。本当にありがとうございました。
- ・ 全国規模で、保健師さんの人材育成や保健師さん達をつなげて高め合える仕事に就きたいなと思います。
- ・ 短時間しか参加できませんでしたが、有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ 普段、関わりのない自治体の方とも情報交換ができて良かったです。大変お世話になりありがとうございました。
- ・ 本来は予防活動を目的に人や組織をつなげる役割を大切に行っている保健師活動だが、コロナという一つの疾病の対応に集中していた経験から、改めて本来の活動の大切さと、新興感染症や災害時に集中的に役割を発揮することの両方に対応していく力量をどのようにつけていくのか、改めて人材育成の重要性を感じた。
- ・ 様々なお話をきき、共感できました。また、学ぶことも多かったです。ありがとうございました。
- ・ 立場は違っても、全国の保健師が同じような思いでコロナと向かい合っていたことを共感しあうことが出来て、元気と力をもらいました。管理的立場として、弱音を吐くことも、泣くこともできず、ひたすら耐えてきました。同じ立場の、違う自治体の方とは安心して話すことができ、少し吐き出すことが出来ました。

## 5. 総評

初めての試みで、参加申込者が少ない状況ではあったが、スムーズに進行できました。また、参加して下さった方からは概ね高評価でした。

トークの中では、辛かった経験を思い返し涙ぐむ方もおられるなど、保健師にとって過酷な経験を共有できる場となったことは意義深かったと思いました。一方、参加されない方からは、「休みの日までコロナのことは考えたくない」「今なお必死で余裕がない」といった声もあり、参加されなかった保健師にも思いを吐き出す場が必要だと感じます。

コロナ対応の中で保健師が大切にしてきたこと、今後に語り継ぎたいことなど、重要な話をたくさん伺うことが出来たことから、次の保健師向けアンケート等に反映させていきたい。

# 保健師同士で語り合う ワールドカフェ 「コロナと保健師活動」

「こんな思いで活動してきた。」「このことは、語り継いでいきたい。」「みんなと思いを共有したい。」  
そんな貴方のためのワールド・カフェです。

開催日時：令和4年7月2日（土）14～16時

開催方法：オンライン（無料）

申込方法：下記の URL からオンライン登録

<https://forms.gle/Vx6SQYuw4DNjDSXp6>

\*オンライン登録は、Google フォームを利用しており、自治体のインターネット環境ではアクセスできない場合があります。その場合は、携帯電話で QR コードを読み込んで登録する、または個人のインターネット環境から登録してください。



申込期間：6月15日～**28日（火曜）**

\*申込期間を延長しました。ぜひご参加ください。

## 当日の流れ

- (1) 開会挨拶、プログラムの説明
- (2) トーク①：ランダムグループトーク
- (3) トーク②：テーマ別グループトーク

テーマ：コロナ対応最前線、統括保健師、管理期、

申込時に選択

中堅期、新任期、OB（コロナ禍で退職）、ワクチン接種、子育て中

- (4) トーク③：ランダムグループトーク
- (5) 全員で振り返りセッション（チャットを活用）

アドバイザー：帝京平成大学 工藤恵子先生、神戸市看護大学 岩本里織先生

- (6) 閉会

色々な保健師との出会いの場。地域や立場や環境が違って、保健師の思いを語り合う場はきっと素敵な共感が生まれ、元気をもらえる場になると思います。

※今回のワールドカフェで話題となった保健師活動とその時の思い、次世代に伝えたいこと等を基に、今後調査を実施し、全国の保健師が新興感染症にどのような視点や思いを持って向き合ってきたのかの記録としたいと考えています。